

平成27年度林業普及指導事業成果発表

持続可能な林業経営の支援

(鳥取地区)

東部農林事務所
八頭事務所普及担当

鳥取地区における課題

1 森林経営計画の作成が進行

森林経営計画の着実な実行が求められている。

⇒進ちよく状況の把握と管理

2 搬出間伐が増加

残存木へのキズが多い。

⇒経営目標に即した林業技術の習得。

3 林業への新規参入者が多い

安全対策等に対する認識が不十分。

⇒安全意識の定着

取 組 内 容

1 森林経営計画の着実な実施

計画策定状況と間伐実施状況の情報共有
進ちよく管理支援

2 持続可能な林業経営の支援

残存木にキズを付けない技術の普及

3 新規参入者の指導・支援

安全研修の実施

1 森林経営計画の着実な実施

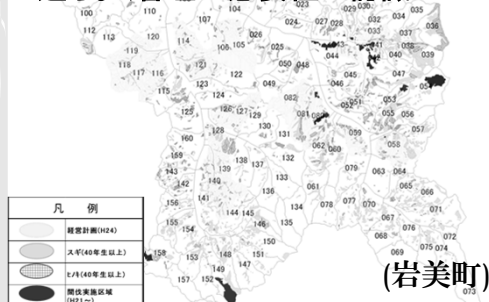
H24～H26策定済森林経営計画

団地数 82 計画面積 8,463ha

鳥取市・岩美町の民有林面積:47,670ha(18%)

区 分		団地数	団地面積	間伐計画	間伐実績	実行率
鳥取県東部 森林組合	鳥取市 (旧鳥取・気高)	44	4,031	509	167	33%
	岩美町	13	871	56	32	57%
	計	57	4,902	565	199	35%
	八頭中央 森林組合	鳥取市 (旧八頭郡)	25	3,561	1,136	189
合 計		82	8,463	1,701	388	23%

森林経営計画・間伐実施区域の見える化 市・町・森林組合と情報の共有 進ちよく管理の必要性の認識



2 持続可能な林業経営の支援

将来の目標を見据えた間伐の知識・技術指導

(1) 伐倒・搬出にかかる意識改革

他の林業事業者との交流

(2) キズの影響調査と結果の周知・啓発

残存木のキズ



他の事業体との交流

鳥取日野森林組合の視察研修

【取り組み】

間伐・搬出時に残す木に防護材を巻き付けることで接触による損傷を軽減。

【効果】

- ・目印となって作業員の注意が喚起された。
(損傷木の減少)
- ・森林所有者に対してのPR効果
(森林組合に対する評価が上がった。)

鳥取日野森林組合視察研修



防護材の巻き付け状況



※職員会議で報告、検討

損傷による腐朽の調査

キズの影響が理解されていない
キズがあっても外して造材すればよい

損傷木の腐朽状況を調査



調査結果を周知・啓発

損傷による腐朽状況の調査



素材評価(市場の評価)

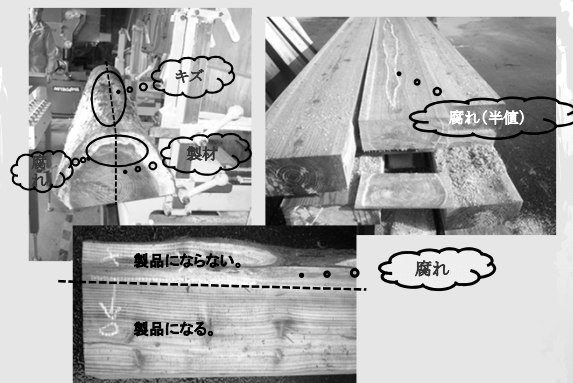


樹種:スギ
4m×1本
末口径:46cm
材積:0.846m³
価格:6,000円/m³



製材所が購入
(チップ材)

製品の評価



調査結果

立木にキズを付けると

- 小さなキズであれば4～5年で巻き込むが腐れが入る。
- キズが大きいと腐れが入り10年経っても巻き込まない。
- キズの位置から上下1m程度は腐れが出る。
- キズがある木は評価が下がる。
(腐れがある木はチップ材)



※今後、広く周知・啓発

3 新規参入者の指導・支援

安全研修会の実施(4回)



研修の内容

- とっとり森林緊急カードの運用
- リスクアセスメントの推進
「作業がどれくらい危険かをランクづけし事前に評価する」

記載例

鳥取県 森林・林業振興局

とっとり森林緊急通報カード

現場名 鳥取県鳥取市 間伐現場

携帯電話の受信可能場所 電電協の場所 0887-23-0119

現場から 119

119 通報不可 中部消防局 0859-29-5124
 右記載番号へ 西部消防局 0859-35-1960

携帯電話の受信は可能ですか？

「はい」 ☒ はい ☐ しない

「はい」の場合、携帯電話が受信可能な場所 幹線林道若杉江府線を約 500m 東へ走った尾根付近

<被災者の情報> 被災現場で携帯電話が受信できない場合のみ記入して、受信可能な場所へ向かう。

氏名： （鳥取太郎） 被災現場で携帯電話が受信可能なら記入せず、代わりに 119 通報可能。

年齢・性別 40 歳 （男） 女 被災部位 手（足）頭・その他

容態・状態 重傷が確認され、機械と地面の間に足が挟まれている 動けない

被災者の情報

意識	<u>ある</u>	<u>ない</u>	出血	<u>多</u>	<u>少</u>	<u>（見かけず）</u>
呼吸	<u>ある</u>	<u>ない</u>	顔色	<u>普通</u>	<u>（白）</u>	
骨折	<u>ある</u>	<u>ない</u>	顔の色	<u>オレンジ</u>		

<被災者の位置>・・・可能な被災位置の緯度・経度を GPS で測定し通報。へり救済の必要性は消防が判断。

被災者の位置※	緯度	経度
(調布市 WSS04)	35 度 24 分 30.0 秒	134 度 04 分 40.6 秒

※携帯電話の GPS 機能は 10m の状態で 1.1 9 通報では、自動的に緯度・経度は消防局へ伝わるので、寧ろ 10m にする。
通報場所が被災者の位置とズレている場合は、通報場所を「救助現場」として入力する。

救急車との合流場所

<救急車と乗客の合流場所>・・・作業開始前に GPS で合流場所を明示

ゼンリン住居地帯の名称	元・位置	合流場所の明示
馬場町 3	GPS/5.1 の 1	旧田原草津線林道若松区江原町の起点の横断橋付近に案内人を送る

(救急車は砂利道端で走行可能な場所を確保し、乗客は乗降可能な場所を確保し、乗客の乗降の経路を確保し、乗客の乗降を必要とする)

応急処置

<応急処置>・・・応急処置は、応急処置の必要がある場合は、可能な合流場所へ向けよう搬送する！

事故現場の安全を確保
話しかける要否などについては、優先を判断する。意識がないとでは、1.1.9 通報する
意識の確保

呼吸確認
1.1.9 通報、胸と腹の動きを見て呼吸の有無を確認する。
呼吸確認の場合、1.1.9 通報し、蘇生に移る。
呼吸がある場合、安定状態に達しない、治療しない。

蘇生術
3.0.2 の「心臓マッサージ」人工呼吸を生命の兆候が認められるまで続ける。

怪傷の処置
清潔な布を覆う、三角巾・タオル等（感染防止対策）を使用し、止血を行う。
意識を回復、生命機能を常時チェックする。

市・町・森林組合と情報を共有
進ちよく管理の必要性を認識
(市町村森林整備計画への反映)

↓ 森林組合、事業体2社で緊急カードの取組
全作業に対する意識が高まった

御清聴ありがとうございました